

令和2年5月29日

開校記念日にあたり ～新たな時代に活躍する人を育てる～

生徒のみなさんの登校が再開し、ようやく学校に活気が戻りました。新型コロナウイルス感染についてはまだ予断を許さない状況ではありますが、一日も早く正常な学校生活が戻るよう皆で気を配りながら生活していきたいと思っております。

5月30日は本校の第117回の開校記念日です。当初の予定では、5月22日（金）に開校記念式典・記念文化教室を実施するはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大変残念ですが本年度の記念行事は中止とさせていただきます。生徒・保護者の皆様、関係者の皆様方には、誠に申し訳なく思っております。

行事は中止となりましたが、今年で117年の歴史は確実に刻まれました。これも、これまで本校を支えてくださった同窓生、教職員や関係者の皆様、地域住民の皆様、そして在校生・保護者等多くの方々のおかげと感謝いたしております。

本校は『私立静岡精華女学校』として1903年（明治36年）に創立されました。創立者杉原正市先生が打ち出した建学の精神は「時代に即応する新しい女性の育成」でした。厳しく礼儀作法を教える一方で、体育と弁論を奨励し、テニス・陸上・バレー・バスケットなどのスポーツを積極的に教育活動に取り入れ、年3回の弁論大会を実施しました。また、運動会と称する遠足を毎月のように実施し、6泊7日の修学旅行、富士登山など当時の女子の学校では他に例のない行事を実施するなど、極めて斬新な近代的女性の育成が実践されました。杉原先生が思い描く「時代に即応する新しい女性の育成」とは、「10年後100年後を見据えた新たな時代に活躍する女性を育てること」でした。すなわち、静岡大成中学校・高等学校の建学の精神「時代に即応する新しい人材の育成」も、「10年後、100年後を見据えた**新たな時代に活躍する人を育てること**」を意味するのです。

社会の変化が激しい今は、10年後に活躍している人を思い描くことさえ難しい時代ですが、杉原先生が実践した、来るべき新たな時代にも即応する斬新な教育、何事にも積極的にチャレンジさせる教育は、今の静岡大成中学校・高等学校においても引き継いでいくべきものと考えます。

静岡大成中学校・高等学校
校長 山田 隆司